2024 年度

講義概要（シラバス）

1 年生

松江総合医療専門学校

看護学科

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	情報科学	2 (45)	1 年	前期・後期
担当教員	水野　薫	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教育経験あり。	

授業形態	講義・演習
目的	情報通信技術の発展による，単体としてのパソコンだけでなくインターネットに接続した状態のパソコンを使いこなさねばならない社会になりつつある。そこで前期にはパソコンを用いた情報リテラシーの習得を目指す。また医療分野においても情報処理は予測，評価，管理等の目的で広く利用されている。そこで後期には標本データを解析・整理・要約するための記述統計学，その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学について，具体例に基づいて基礎的内容解説する。
目標	①平均，分散，不変分散，カイ２乗検定，帰無仮説，有意水準，自由度，t 検定などを理解し簡単なデータ処理に使えること。 ②上記のデータ処理に表計算ソフト Excel を，報告書の作成に文書作成ソフト Word を使えること。さらに電子メイルでこれらのファイルのやり取りを行えること。

授業内容

回	項目	内容
1	ガイダンス　情報と社会	前期の講義内容，評価方法の説明 情報通信技術(ICT)，情報リテラシーとリスク
2	インターネットの基礎知識　統計学の概説	インターネット，電子メイル，ソーシャルメディア 記述統計学の基礎的用語の解説
3	パソコンの基本的操作	パソコンの構成要素とアプリケーションソフト， 日本語入力，ファイルの保存
4	文書作成ソフト①	Word の基本操作　文書の作成
5	文書作成ソフト②	図，表を含む文書の作成
6	表計算ソフト①	Excel の基本操作　表の作成
7	表計算ソフト②	関数機能を用いた表計算，グラフの作成
8	中間試験	パソコンを用いた簡単なデータ処理とその結果を まとめた報告書の作成の実技試験
9	ガイダンス，プレテスト	後期の講義内容，評価方法の説明
10	数学的準備	級数の和，順列･組合せ，確率
11	平均と分散①	度数分布と平均
12	平均と分散②	分散と標準偏差
13	信頼区間①	母集団と標本，無作為抽出
14	信頼区間②	標本平均と不変分散
15	信頼区間③	区間推定
16	カイ2乗検定①	観測度数と期待度数
17	カイ2乗検定②	カイ2乗値
18	カイ2乗検定③	カイ2乗分布と自由度
19	カイ2乗検定④	有意水準と仮説検定
20	t 検定①	平均値の差の信頼区間
21	t 検定②	t 値と仮説検定
22	t 検定③	対応のある t 検定
23	期末試験	統計学の基礎的知識と能力を問う試験

教科書 参考書	前期：30 時間でマスター Word & Excel 2019 Windows10 対応（実教出版） 系統看護学講座　別巻　看護情報学　第 3 版（医学書院）（参考書） 後期：向後千春，富永敦子著：統計学がわかる　（技術評論社）
評価方法	演習問題のレポート(15 点満点)，中間試験(30 点満点)，期末試験(55 点満点)の合計点で評価する。得点が 60 点以上で合格。 欠席や遅刻（30 分まで，それ以降は欠席）・早退による減点は行わないが，中間・期末試験の受験にはそれまでの講義回数の 2/3 以上の出席（早退・遅刻は 0.5 回の欠席として扱う）がないと受験を認めない。

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	生物学	1(30)	1年	前期
担当教員	舟木　賢治	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。	
授業形態	講義			
目的	生物一般の生命現象への関心を深め、人間理解につなげる能力を養う。			
目標	基本的な生命現象の諸様相を通覧することにより、生物学全体に関わる基礎知識を学習し、人が生きていること（生命）の自然科学の面から解明する。 また、生命の基本現象や法則を知ることにより、生命の尊厳について考え、看護の対象である人間理解への基礎とする。			

授業内容	回	項目	内容
	1	生物学を学ぶにあたって	1.　生物学を学ぶ意義 2.　授業の進め方、学習方法および評価について
	2・3	生命体のつくりとはたらき	1.生物の定義、生物の階層性 2.生体を構成する物質 3.細胞の構造と細胞内器官の機能
	4・5	生命維持のエネルギー	1.糖、タンパク質の構造と酵素のはたらき 2.同化と異化 3.呼吸によるエネルギー産生
	6・7	細胞分裂	1.細胞周期と体細胞分裂 2.減数分裂
	8・9・10	ヒトの遺伝	1.遺伝子 DNA の構造と複製 2.遺伝子発現とタンパク質合成 3.遺伝の法則とヒトの遺伝形質 4.病気と遺伝（遺伝子突然変異と染色体突然変異）
	11・12	生殖と発生	1.ヒトの生殖 2.ヒトの発生
	13.14	生命科学の進歩	1.バイオテクノロジーの現状と課題 2.バイオテクノロジーの医療への応用
	15	ヒトと自然	地球環境とヒトとの共存

教科書 参考書	系統看護学講座　基礎分野　生物学　第10版（医学書院）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	心理学	1(30)	1年	前期
担当教員	藤井　香里	実務経験	専門学校・短期大学にて教授経験あり	
授業形態	講義			
目的	人間の心の働きと行動を理解するための基礎を学ぶ。			
目標	(1) 知覚・記憶・学習の成立過程を学ぶ。 (2) ライフサイクルの各段階における心の発達過程を学ぶ。 (3) 心理学の応用について学ぶ。			

授業内容	回	項目	内容
	1	オリエンテーション	心理学とは（定義・歴史)、授業計画について
	2	知覚・記憶	錯視、恒常性、奥行き知覚、記憶過程、忘却
	3	学　　習	古典的条件付け・オペラント条件付け
	4	欲求・動機づけ	生理的動機、社会的動機、内発的・外発的動機、葛藤
	5 ～ 11	発達心理学	エリクソンのライフサイクル論 乳児期： 身体的発達、愛着形成過程・パターン、タッチケア 幼児期： ピアジェの発達理論、心の理論 児童期： 社会性の発達、ギャングエイジ 青年期： 二次性徴、アイデンティティの確立 成人期： 結婚・子育てなどのライフイベント、中年期危機 老年期： 老いとは、生きがい、死の受容
	12	教育心理学	障がいをもつ子の理解
	13	人格心理学	パーソナリティとは、類型論・特性論、知能とは、心理検査
	14	臨床心理学	フロイト、ユングについて、ロジャーズのカウンセリング理論
	15	社会心理学	対人認知、集団・群集の心理

教科書 参考書	系統看護学講座　基礎分野　心理学　第6版（医学書院）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>基礎分野</td><td colspan="2">社会学</td><td>1(30)</td><td>1年</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">香川 奈緒美</td><td>実務経験</td><td colspan="2">大学准教授として大学、
専門学校にて教授経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義・演習</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">社会学の基本的な発想や視点について学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">1.人と社会との関わりについて理解を深める。
2.現代社会の特徴について理解を深める。
3.社会学的な知見の活かし方を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td>回</td><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td rowspan="3">授業内容</td><td>1
～
3</td><td colspan="2">社会学の基本</td><td colspan="2">１．社会学とは
２．社会学的視点　前半
３．社会学的視点　後半</td></tr>
<tr><td>4
～
9</td><td colspan="2">正常／逸脱の社会学的理解</td><td colspan="2">４．グループ内協議・プレゼンテーション準備
５．社会システムとしての医療
６．医療におけるパラダイムシフト
７．患者と医療従事者
８．専門性のとらえ
９．グループ発表　前半</td></tr>
<tr><td>10
～
15</td><td colspan="2">共同体としての地域と医療</td><td colspan="2">10．グループ内協議・プレゼンテーション準備
11．ジェンダー論の視点から見る医療
12．家族と社会保障
13．地域社会と医療
14．グループ発表　後半
15．まとめ</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5">講義内にて指示
系統看護学講座　基礎分野　社会学 第7版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">平常点、レポート、グループプロジェクトにて評価を行う。</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	倫理学	1(15)	1	前期
担当教員	池松　辰男	実務経験	大学で教授経験あり	
授業形態	講義			
目的	倫理学は、人と人との間柄のなかでどのように生きるべきか、何を行うべきかを探究する学問である。倫理学の取り扱う範囲は、「幸福とは何か」「なぜ悪いことをしてはいけないのか」といった古典的・基礎的な問いから、生命倫理、看護倫理、環境倫理といった現代的・応用的な問題まで、非常に幅が広い。この授業は、倫理学の基礎を学ぶとともに、それを活かして、現代の生命、医療、看護といった分野における主要な問題について、自分で考える力や他者と討論する力を身につけることを目的としている。			
目標	1. 倫理学上の主要な問題・理論について、基礎知識を身に付けること。 2. 上記(1)を活かし、現代社会で生命・医療・看護の分野が直面する倫理的・社会的問題について、問い方・考え方の基礎を身につけること。 3. 上記(2)を活かし、問題について自分で考えるとともに、他者と問題を共有しながら討論できるようになること。			

授業内容	回	項目	内容
	1	倫理学の基礎 (1)	1. イントロダクション(倫理/倫理学の概要) 2. 徳倫理学
	2	倫理学の基礎 (2)	1. 義務論 2. 功利主義
	3	倫理学の基礎 (3) 生命/医療倫理の基礎 (1)	中間総括：基礎倫理から生命/医療倫理へ
	4	生命/医療倫理の基礎 (2)	1. 生命/医療倫理の概要・歴史
		生命/医療倫理の基礎 (3)	2. 生命/医療倫理の基本原則とその事例
	6	生命/医療倫理の基礎 (4)	3. 現代医療の倫理的問題　生/死の観点から①
	7	生命/医療倫理の基礎 (5)	4. 現代医療の倫理的問題　生/死の観点から②
	8	試験	筆記試験

教科書 参考書	教科書：系統看護学講座　別巻　看護倫理　第 3 版（医学書院） 参考書：『西洋倫理思想の考え方』（山川出版社）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。

<table>
<tr><td>分野</td><td>科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>基礎分野</td><td>英語Ⅰ
（コミュニケーション英語）</td><td>1(15)</td><td>１年</td><td>前期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td>小豆澤　美穂</td><td>実務経験</td><td colspan="2">国立大学法人島根大学　英語講師</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="4">講義（双方向型）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="4">○　多文化共生時代の現代社会において、医療現場に活かせる英語コミュニケーションの基礎を学びます。
○　中学高校の座学英語から離れ、実践的な双方向型授業となります。
○　毎回、看護に関する動画を視聴し、自分の意見を発表したり、グループでのディスカッションをすることによって、英語発信力を身に着けます。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="4">1. 英語でコミュニケーションをとる態度を身につける。
2. 看護師として必要な英語運用能力（聞く・話す）を持っている。
3. 看護師として必要な英語運用能力（読む・書く）を持っている。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td colspan="2">教科書の使い方&英語で自己紹介</td></tr>
<tr><td>2</td><td>Unit 1 & 2</td><td colspan="2">動画視聴・演習問題・グループワーク　　小テスト（1）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>Unit 3 & 4</td><td colspan="2">動画視聴・演習問題・グループワーク　　小テスト（2）</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Unit 5 & 6</td><td colspan="2">動画視聴・演習問題・グループワーク　　小テスト（3）</td></tr>
<tr><td>5</td><td>Unit 8 & 9</td><td colspan="2">動画視聴・演習問題・グループワーク　　小テスト（4）</td></tr>
<tr><td>6</td><td>Unit 10 & 11</td><td colspan="2">動画視聴・演習問題・グループワーク　　小テスト（5）</td></tr>
<tr><td>7</td><td>Unit 12 & 13</td><td colspan="2">動画視聴・演習問題・グループワーク　　小テスト（6）</td></tr>
<tr><td>8</td><td>期末試験</td><td colspan="2">Unit 1～14 から出題</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="4">Talking with Your Patients in English
（アニメで学ぶ看護英語）
成美堂</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">平常点（授業への取り組み・態度など）　３０％
小テスト（全６回）　３０％
期末試験　４０％</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>基礎分野</td><td colspan="2">保健体育Ⅰ</td><td>1(30)</td><td>1年</td><td>前期
後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">三井　律子　内部教員</td><td>実務経験</td><td colspan="2">専門学校にて教授経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">実技</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">健康や体力について理解し、運動の実践を通してコミュニケーション能力や、心身の調和的発達を促すとともに、健康で安全な生活を営む能力を身につける。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">自分自身の健康の保持、増進、体力の向上をはかり、運動の意味や効果を理解し、運動することへの自覚を促進する。
団体競技や実技を通して、他者とのコミュニケーションを深めたり、集団の中での関わり方について学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">授業内容</td><td>回</td><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td>1
・
2</td><td colspan="2">体力チェック</td><td colspan="2">体力チェック</td></tr>
<tr><td>3
.
4</td><td colspan="2">実技</td><td colspan="2">ニュースポーツの実際</td></tr>
<tr><td>5
.
6</td><td colspan="2">実技</td><td colspan="2">心身の健康とチームワークビルディングについて</td></tr>
<tr><td>7
.
8</td><td colspan="2">健康と運動</td><td colspan="2">健康と体力について</td></tr>
<tr><td>9
.
11</td><td colspan="2">健康と運動</td><td colspan="2">エアロビクスダンスエクササイズの実際</td></tr>
<tr><td>12
～
15</td><td colspan="2">健康維持のためのプランニング</td><td colspan="2">健康維持のためのプランニング
プラン作成・実施・まとめ</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">出席状況、受講態度等による総合評価</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>基礎分野</td><td colspan="2">論理学Ⅰ</td><td>1(15)</td><td>1年</td><td>前期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">津本 優子　勝部美保子
近藤　直美</td><td>実務経験</td><td colspan="2">大学にて教育経験あり
看護師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義　　演習</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">看護に必要な論理的思考力と伝達力（文章力）を、実践を通して身に付ける。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">1．文章の論理的な構造を理解し、その構造を説明できるようになる。
2．読解力を養い、文章を理解する力を身につける。
3．レポートの書き方が理解できる。
4．効果的な発表とその方法について理解できる</td></tr>
<tr><td rowspan="9">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="2">内容</td><td>担当</td></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="2">看護と論理的思考力</td><td colspan="2">看護における論理的思考とは何かを理解する。</td><td rowspan="2">津本</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">論理的思考の根拠と結論の理解と実践を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>3</td><td>文章の理解</td><td colspan="2">基本的な文章読解のための知識を身に付けることを目指す。順接や逆説、指示関係などの文章間の関係を理解、説明できるようになることを目指す。</td><td rowspan="3">近藤</td></tr>
<tr><td>4</td><td>論理的に読む</td><td colspan="2">論理的に読む事に必要な 4 つのステップと 5 つのポイント
論理的に読む事の実践</td></tr>
<tr><td>5
・
6</td><td>レポートを書く</td><td colspan="2">レポートの基本的な書き方
実際にレポートを書き、評価修正する。</td></tr>
<tr><td>7
・
8</td><td>効果的に伝える方法の理解</td><td colspan="2">効果的な発表とは
パワーポイントの活用</td><td>勝部</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5">看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル（医学書院）
系統看護学講座　別巻　看護情報学　（医学書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">テーマに基づいて作成したレポートを評価する。
テーマを提示し作成したパワーポイントを評価する。</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ (骨・筋・神経・生殖器)	2(45)	1年	前期
担当教員	石倉　健一　田中　雅文 内田　武 近藤直美　勝部美保子	実務経験	作業療法士として病院勤務経験あり 理学療法士として病院勤務経験あり 看護師として病院勤務経験あり	
授業形態	講義			
目的	人体を骨格系や内臓系などの系統別に分け、細胞レベルから全身に至る人体の構造を理解する。 人体を認識するため生体の機能を系統別に学ぶ。			
目標	人の生命現象を理解するために生体の構造の特徴を理解し、その意義について学ぶ。 人体における生命現象の対象として、生体の働き、細胞、組織、器官の役割と機能を学ぶ。 健康な人が活動しているときに人体に起こる生理機能的変動を知り、その制御機能を知る。			

授業内容	回	項目	内容	担当
	1	人体とは何か	人体とは	石倉
	2 3	細胞と組織	1. 細胞 2. 組織	
	4 ～ 8	骨格系	1. 骨格とはどのようなものか 2. 骨の連結 3. 体幹の骨格 4. 上肢の骨格 5. 下肢の骨格 6. 頭蓋	内田
	9 ～ 13	筋系	1. 骨格筋はどのようなものか 2. 頭頸部の筋 3. 体幹の筋 4. 上肢の筋 5. 下肢の筋	
	14 ～ 19	神経系	1. 神経系の分類 2. 神経系の発生 3. 中枢神経系 4. 末梢神経系、感覚器 5. 自立神経系、内分泌 6. 伝導路	石倉 田中
	20 21	皮膚	1. 皮膚の構造と機能 2. 生体の防御機構 3. 体温とその調節	勝部
	22 23	生殖器系	1. 発生学概論 2. 減数分裂とその意義 3. 性の決定 4. 男性生殖器 5. 女性生殖器	近藤

教科書 参考書	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第11版（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	解剖生理学Ⅱ (循環・呼吸・消化・泌尿・内分泌系)	2(45)	1年	前期
担当教員	中川　忠彦	実務経験	助教として大学にて教授経験あり。	

授業形態	講義		
目的	人体を骨格系や内臓系などの系統別に分け、細胞レベルから全身に至る人体の構造を理解する。 人体を認識するため生体の機能を系統別に学ぶ。		
目標	人の生命現象を理解するために生体の構造の特徴を理解し、その意義について学ぶ。 人体における生命現象の対象として、生体の働き、細胞、組織、器官の役割と機能を学ぶ。 健康な人が活動しているときに人体に起こる生理機能的変動を知り、その制御機能を知る。		
授業内容	回	項目	内容
	1 ～ 6	循環器系	1. 循環器とはどのようなものか 2. 心臓 3. 血管の構造 4. 肺循環の血管 5. 全身の動脈 6. 全身の静脈 7. 胎児の血液循環 8. リンパ系 9. 循環系の関連臓器
	7 ～ 11	呼吸器系	1. 呼吸器の構造と機能 2. 外呼吸と内呼吸 3. 気道の構造と機能
	12 ～ 16	消化器系	1. 消化とは 2. 口腔の構造と機能 3. 唾液、唾液腺 4. 消化管の構造と機能 5. 肝臓、胆嚢、すい臓 6. 腹膜の局在と機能、後腹膜臓器
	17 ～ 19	泌尿器系	1. 腎臓の構造と機能 2. 尿管の走行 3. 膀胱の構造と機能 4. 尿道の走行
	20 ～ 22	内分泌系	1. 神経による調節 2. 内分泌系による調節 3. 下垂体・甲状腺・上皮小体の構造と機能 4. 膵臓・副腎の構造と機能
	23	テスト	
教科書 参考書	系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第11版（医学書院）		
評価方法	筆記試験		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	形態機能学	1(30)	1年	前期 後期
担当教員	勝部美保子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義		
目的	看護過程の展開に活かすための人体の構造の理解のしかた、機能のとらえかたについて学ぶ。前期に習得した人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを主体的に学び、看護が必要となった際に、対象の「身体」をどのようにとらえていくべきかを学ぶ。		
目標	解剖生理学で学ぶからだのつくりと働きを、日常生活行動の枠組みで整理し、看護実践へつなげる基礎的な知識を習得する。		
授業内容	回	項目	内容
	1	オリエンテーション	科目の位置づけ、目的、方法、評価について
	2 ～ 13	グループワーク・個人学習	A:心臓の循環動態 B：心臓の刺激電動系、血圧を維持すること C:呼吸をすること D:睡眠をとること E:話をする・聞くこと F:栄養を摂ること（摂食・消化） G:排尿をすること（尿の生成・立位での排尿） H:排便をすること（便の生成・座位での排便） I：ストレスと恒常性の維持 J：眠ること、お風呂の入る
	14 ～ 15	発表	グループごとに発表
教科書 参考書	看護形態機能学　生活行動からみるからだ　第4版（看護協会出版） 系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　第11版（医学書院） 日常生活行動からみるヘルスアセスメント　初版　（日本看護協会出版会）		
評価方法	グループワークの内容・提出・発表　　筆記試験にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	生化・栄養学	1(30)	1年	後期
担当教員	中川　忠彦	実務経験	助教として大学、専門学校にて教授経験あり。	

授業形態	講義
目的	生命現象を糖質・脂質・アミノ酸・核酸などの生体分子の構造と機能から総合的に理解する。また、食物、食生活と健康の関係について科学的かつ総合的に理解する。臨床栄養学について理解する。
目標	生体内で起こっている物質の動態や現象を理解し、正常な身体の有り様や、病的状態をはじめ、日常の事象に対して科学的な解析をする習慣を養うと共に、臨床の各分野に必要な基礎的な知識を学ぶ。また、生体が正常な営みをするのに必要な栄養について理解し、各々の疾患に対し栄養補給のみならず、効果的な食事療法が出来るよう基礎的知識を学ぶ。

授業内容

回	項目	内容
1	化学のための生物学、代謝の概要、代謝と酵素	身近な生化学、代謝の概念と三大栄養素代謝の概要、酵素の役割と代謝の調節、ビタミンの種類と役割
2	糖質の構造と機能、糖質代謝	単糖の構造と機能、多糖・複合糖の構造と機能、糖質の消化吸収とエネルギー代謝、糖質の貯蔵と新生
3	脂質の構造と機能、脂質代謝	脂質の種類とその構造、脂質の輸送とリポタンパク質、脂質の消化吸収と脂肪酸代謝、脂質の合成と貯蔵
4	タンパク質の構造と機能、タンパク質代謝	アミノ酸の種類と構造、タンパク質の高次構造（立体構造）、生体含窒素化合物の代謝
5	ポルフィリン代謝と異物代謝	ポルフィリンの生合成と分解、生体異物代謝、タンパク質の消化吸収とアミノ基転移
6	遺伝と核酸、遺伝子の複製と修復	遺伝学の基礎、核酸代謝、ＤＮＡ複製のメカニズム、ＤＮＡの修復と変異
7	遺伝情報の発現とその調節	転写のメカニズム、遺伝子の発現調節、翻訳と翻訳後修飾
8	シグナル伝達、代謝のまとめと疾患	ホルモン概論、シグナル伝達の仕組み、代謝異常疾患、がん
9	各栄養素の栄養的役割、栄養所要量とエネルギー所要量	飲食物に含まれるおもな栄養素の栄養的役割と特徴、栄養所要量とエネルギー所要量の算定および各栄養素の所要量
10	ライフステージと栄養	ライフステージ別の栄養を栄養素の面から学ぶ。
11	ライフステージ別の栄養を栄養素の面から学ぶ。	食品構成による食事計画の基本
12	飲食物の摂取と消化吸収、わが国の栄養の現状と栄養改善	食物に含まれる各栄養素の消化・吸収のしくみ
13	臨床栄養、栄養成分別分類と治療食	臨床栄養の意義と食事療法の概要、病院給食について、栄養療法とは
14	各疾患別の栄養（１）	消化器疾患、内分泌疾患
15	各疾患別の栄養（２）	その他

教科書 参考書	系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　第14版（医学書院） 系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　第13版（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	臨床遺伝学	1(30)	1 年	後期
担当教員	荒木もも子 竹下　美保 大越　寛子	実務経験	専門学校/大学/大学院にて教授経験あり看護師として病院勤務経験あり	

授業形態	講義
目的	遺伝学の基礎知識、ゲノムの多様性、遺伝医療の現状を理解する。 遺伝医療における看護の役割を学び、遺伝看護に必要な倫理的問題について考えることができる。
目標	・ゲノムと染色体と遺伝子、遺伝の基本的機序を説明できる ・遺伝的多様性を踏まえた上で、環境と健康・生活との関連について理解できる ・遺伝情報の特性を説明できる ・遺伝医療における看護の役割を理解できる ・遺伝看護に必要な倫理・社会的問題について意見を述べることができる

授業内容

回	項目	内容	担当
1	遺伝学とは	・遺伝学の歴史、遺伝医療の変化 ・メンデル遺伝	荒木
2	遺伝子の構造と機能	・遺伝子の基礎的知識（セントラルドグマ） ・ゲノム・染色体・遺伝子・DNA の違い	荒木
3	遺伝形式	・常染色体顕性・潜性遺伝病 ・X 連鎖潜性遺伝病	荒木
4	単一遺伝子疾患	・単一遺伝子疾患の機序と代表的疾患 ・トリプレット遺伝子病	荒木
5	ヒトの遺伝学的多様性	・遺伝的バリエーション ・ゲノムの多様性	竹下
6	遺伝カウンセリング	・遺伝カウンセリングとは ・遺伝情報の特殊性	竹下
7	染色体異常症	・染色体異常の機序と代表的疾患 ・性染色体異常症	荒木
8	発生学と先天異常	・発生学の基礎 ・先天性異常の機序と代表的疾患	大越
9	生命倫理と遺伝倫理	・優生学と生命倫理 ・多様性と遺伝看護に必要な倫理観	竹下
10	出生前診断における看護実践	・出生前診断の基礎 ・出生前診断を受けるクライエントの心理	大越
11	先天性異常症患者への支援	・小児期における遺伝カウンセリング ・インフォームドアセント	荒木
12	遺伝性筋･神経疾患患者への支援	・遺伝性筋・神経疾患患者への支援 ・発症前診断における看護	荒木
13	遺伝性腫瘍患者への支援	・遺伝性腫瘍の代表的疾患 ・サーベイランスにおける看護	竹下
14	がんゲノム医療	・がんゲノム医療の基礎知識 ・がんゲノム医療における患者支援	竹下
15	これからの遺伝医療と看護における課題	・遺伝性疾患と治療の現状と今後の課題 ・倫理的・社会的課題	竹下

教科書 参考書	基礎から学ぶ遺伝看護学　中込さと子監修　（羊土社）
評価方法	授業出席日数、レポート、筆記試験にて評価を行う

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学総論	1(30)	1年	前期
担当教員	田中　雄二	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義
目的	病因と病変の特徴を理解する。
目標	病因と病理発生（病変）の特徴を理解する。 病理検査の概要を学ぶ。

授業内容	回	項目	内容
	1	病理学で学ぶこと	1. 看護と病理学 2. 病気の原因 3. 病気の分類と病理学の学び方
	2	細胞･組織の損傷と修復, 炎症	1. 細胞・組織の損傷と適応 2. 細胞・組織の損傷に対する反応 3. 炎症の分類と治療
	3・4	免疫，移植と再生医療	1. 免疫と免疫不全 2. アレルギーと自己免疫疾患 3. 移植と再生医療
	5・6	感染症	1. 感染の成立と感染症の発病 2. おもな感染症 3. 感染症の治療・予防
	7・8	循環障害	1. 循環系の概要　2. 浮腫 3. 充血とうっ血　4. 出血と止血 5. 血栓症　6. 塞栓症 7. 虚血と梗塞　8. 側副循環による障害 9. 高血圧症　10. 播種性血管内凝固症候群 11. ショックと臓器不全
	9	代謝障害	1. 脂質代謝障害　2. タンパク質代謝障害 3. 糖質代謝異常　4. そのほかの代謝障害
	10	老化と死	1. 個体の老化と老年症候群 2. 老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化 3. 個体の死と終末期医療
	11・12	先天異常と遺伝性疾患	1. 遺伝の生物学 2. 先天異常 3. 遺伝子の異常と疾患 4. 先天異常・遺伝性疾患の診断と治療
	13・14	腫瘍	1. 腫瘍の定義と分類 2. 悪性腫瘍の広がりと影響 3. 腫瘍発生の病理 4. 腫瘍の診断と治療
	15	生活習慣と環境因子による生体の障害	1. 生活習慣による生体の障害 2. 放射線による生体の障害　3. 中毒

教科書 参考書	系統看護学講座　専門基礎分野　病理学　第6版（医学書院）
評価方法	筆記試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅰ (循環・呼吸・消化器)	1(30)	1年	後期
担当教員	田邊　一明、 長尾　大志 、堀江　聡	実務経験	医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、臓器系統別に主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。			
目標	成人の循環器・呼吸器・消化器系疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。			

授業内容	回	項目	内容	担当
	1 ～ 5	循環器系の解剖生理 主な症状・検査	1.構造・機能 2.胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ 3.心電図、胸部X-P、心エコー	田邊
		治療・処置	1.内科的治療 薬物療法、ペースメーカー、心臓カテーテル 2.外科的治療 弁置換術、バイパス手術、血管再建	
		主な疾患の病態生理	1.狭心症・心筋梗塞 2.高血圧・不整脈 3.弁膜症・先天性疾患	
	6 ～ 10	呼吸器系の解剖生理 主な症状・検査	1.構造・機能 2.喀痰、血痰、咳、胸痛、呼吸困難 3.喀痰検査、胸部X-P、内視鏡検査、呼吸機能検査	長尾
		治療・処置	吸入療法、酸素療法、呼吸理学療法	
		主な疾患の病態生理	1.肺炎、結核、間質性肺疾患、気道疾患、肺腫瘍 2.気道疾患、急性上気道炎 3.肺腫瘍、肺切除、胸胞ドレナージ	
	11 ～ 15	消化器系の解剖生理 主な症状・検査	1.構造・機能 2.嚥下困難、吐き気、嘔吐、腹痛、吐血、下血、下痢、便秘、腹水、黄疸 3.糞便検査、血液検査、内視鏡検査、エコー、CT	堀江
		治療・処置	1.内科的治療 薬物療法、栄養療法、放射線療法 2.外科的治療 手術療法	
		主な疾患の病態生理	1.食道がん、食道アカラシア、胃食道逆流症、胃炎、胃十二指腸潰瘍、胃がん、腸疾患、大腸がん、腹膜疾患、肛門疾患 2.肝炎、肝硬変、肝がん 3.胆石症、胆道がん、膵炎、膵がん	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　循環器　第16版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　呼吸器　第16版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　消化器　第16版（医学書院）
評価方法	筆記試験

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td colspan="2">時期</td></tr>
<tr><td>専門基礎分野</td><td colspan="2">病理学Ⅱ
(運動・脳・神経・血液・造血器)</td><td>1(30)</td><td>1年</td><td colspan="2">後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">伊達　伸也、近藤　威
但馬　史人</td><td>実務経験</td><td colspan="3">医師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="6">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="6">剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、臓器系統別に主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="6">成人の運動器・脳、神経・血液、造血器系疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。</td></tr>
<tr><td rowspan="13">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="2">内容</td><td>担当</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1
～
5</td><td>運動器系の解剖生理
主な症状・検査</td><td colspan="2">1. 構造・機能
2. 疼痛、形態・関節運動の異常、神経・筋肉の障害
3. 肢位・姿勢、計測、画像検査、骨密度、関節鏡</td><td rowspan="3">伊達</td></tr>
<tr><td>治療・処置</td><td colspan="2">1. 保存療法
2. 理学療法・作業療法
3. 手術療法
4. 義肢と装具</td></tr>
<tr><td>主な疾患の病態生理</td><td colspan="2">1. 外傷性の疾患
骨折、脱臼、筋・腱・靭帯の損傷
2. 内因性の疾患
骨腫瘍、軟部腫瘍、筋・腱の疾患、神経の疾患、脊椎の疾患</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6
～
10</td><td>脳・神経の解剖生理</td><td colspan="2">1. 脳・神経構造と機能
2. 症状とその病態生理
3. 検査・診断</td><td rowspan="3">近藤</td></tr>
<tr><td>治療・処置</td><td colspan="2">1. 外科的治療法
2. 内科的治療法</td></tr>
<tr><td>主な疾患の病態生理</td><td colspan="2">1. 脳疾患(脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、腫瘍、てんかん、外傷、水頭症など)
2. 末梢神経障害　3. 脱髄・変性疾患
4. 脳・神経系の感染症　5. 認知症
6. パーキンソン病</td></tr>
<tr><td rowspan="3">11
～
15</td><td>血液・造血系の解剖生理
主な症状・検査</td><td colspan="2">1. 成分・機能、造血のしくみ
2. 貧血、白血球増加・減少、脾腫、リンパ節腫脹
3. 血液検査、骨髄穿刺、リンパ節生検</td><td rowspan="3">但馬</td></tr>
<tr><td>治療・処置</td><td colspan="2">1. 輸血療法
2. 化学療法
3. 造血幹細胞移植</td></tr>
<tr><td>主な疾患の病態生理</td><td colspan="2">1. 赤血球・白血球系の疾患
2. リンパ網内系疾患
3. 出血性疾患</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="6">系統看護学講座　専門分野　運動器　第15版（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　脳・神経　第16版（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　血液・造血器　第16版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="6">筆記試験にて評価を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>専門基礎分野</td><td colspan="2">病理学Ⅲ
(感染症　歯・口腔)</td><td>1(15)</td><td>1年</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">関　龍太郎　成相　義樹</td><td>実務経験</td><td colspan="2">医師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、成人の感染症、歯・口腔疾患の病態と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、病院、施設、在宅での看護の実践に活用する。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">感染症、歯・口腔疾患の病態・治療・処置・検査について理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="2">内容</td><td>担当</td></tr>
<tr><td rowspan="3">1
～
5</td><td>感染症
主な症状・検査</td><td colspan="2">1.感染症とは–感染源・主体・感染経路
2.症状・・上気道・頭部・筋・骨にみられる症状、胸痛、腹痛、不明熱
3.検査・・塗抹・培養検査、抗原・抗体検査、ウィルス・毒素の検査</td><td rowspan="3">関</td></tr>
<tr><td>治療・処置</td><td colspan="2">1.抗菌薬治療 2.摘出術、穿刺
2.一次予防、二次予防、三次予防</td></tr>
<tr><td>主な疾患の病態生理</td><td colspan="2">1.エボラ、インフルエンザ、コロナ感染症、肺炎、
2.エイズ、結核、マラリア、コレラ。食中毒、
3.髄膜炎、敗血症、膀胱炎、腎盂腎炎、心内膜炎等
4.性感染症</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6
～
8</td><td>歯・口腔の解剖生理
主な症状・検査</td><td colspan="2">1.構造・機能
2.主な症状
3.検査</td><td rowspan="3">成相</td></tr>
<tr><td>治療・処置</td><td colspan="2">1.保存治療
2.外科的治療</td></tr>
<tr><td>主な疾患の病態生理</td><td colspan="2">1.う歯、歯周病
2.腫瘍（舌癌）</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野　アレルギー膠原病感染症　第15版（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　歯・口腔　第14版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験にて評価を行う。</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	病理学Ⅳ (内分泌・代謝、感覚器)	1 (30)	1 年	後期
担当教員	千貫　祐子、越智　康之 新原　寛之、渋谷　勇三 岩元　純一　並河　　整	実務経験	大学教授として大学、専門学校にて教授経験あり。 医師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義			
目的	解剖生理学の知識に加え、病理学総論で学んだ病変を来した健康障害について、成人の内分泌・代謝系疾患、感覚器系（目・耳鼻・皮膚）の病主たる疾患と治療・処置・検査などから理解する。また、診療時に行われる各種治療・処置・検査法の概要を学び、健康障害の理解を深め、看護実践に活用する。			
目標	内分泌・代謝、感覚器に関わる疾患の病態・治療・処置・検査について学ぶ。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1 ～ 3	皮膚科系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 発疹、掻痒、皮膚の老化 3. 免疫・アレルギー検査、光線過敏症検査、病原微生物検査	千貫 越智 新原
	治療・処置	1. 内服、外用療法 2. 手術療法 3. 光線、レーザー療法 4. 凍結、温熱療法	
	主な疾患の病態生理	1. 表在性皮膚疾患 2. 真皮・皮下の疾患 3. 脈管系の疾患、腫瘍	
4 ～ 11	感覚器系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能（眼・耳鼻咽喉） 2. 視力・視野・色覚障害、充血、眼脂、難聴、 眩暈、鼻閉、鼻出血、嚥下障害、言語障害 3. 視力・眼底・眼圧検査、聴力・平衡機能検査、嗅覚・味覚検査	渋谷 岩元
	治療・処置	1. 点眼・洗眼法、屈折矯正、手術療法 2. 点耳・鼓膜切開、手術療法 3. 点鼻・ネブライザー法、手術療法	
	主な疾患の病態生理 主な症状・検査	1. 眼瞼・結膜の疾患、眼底の疾患、水晶体の疾患 2. 外耳炎、中耳炎、メニエール 3. 鼻炎、副鼻腔炎、咽頭がん、喉頭がん	
	主な疾患の病態生理 治療・処置	1. 構造・機能 2. 識障害、テタニー、頭痛、吐き気、嘔吐 3. ホルモンの血中濃度、尿中濃度、負荷試験	
12 ～ 15	内分泌・代謝系の解剖生理 主な症状・検査	1. 構造・機能 2. 意識障害、テタニー、頭痛、吐き気、嘔吐 3. ホルモンの血中濃度、尿中濃度、負荷試験	並河
	主な疾患の病態生理 治療・処置	1. 視床下部－下垂体系疾患 2. 甲状腺疾患 3. 糖尿病、高血脂症 4. 肥満症とメタボリックシンドローム 5. 尿酸代謝障害	

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　皮膚　第 15 版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　眼　第 14 版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　耳鼻咽喉　第 14 版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　第 16 版（医学書院）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>専門基礎
分野</td><td colspan="2">病理学Ⅶ
(精神疾患)</td><td>1(15)</td><td>1 年</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">小野　浩太</td><td>実務経験</td><td colspan="2">医師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">心の発達と心の働きに関連する要因及び特性、概念と発達さらに人間行動の理解を深める。
また、精神が障害されたことによりおこる行動の変化に対する理解を深め、看護実践に活用する。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">人間の心の発達と働き、性の概念と意義について理解し、精神保健の重要性が理解できる。
精神疾患の病態・治療・処置・検査について理解できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">授業内容</td><td>回</td><td colspan="2">項目</td><td colspan="2">内容</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">心の働き</td><td colspan="2">心の働き</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">主な症状</td><td colspan="2">1. 精神症状
2. 精神病像</td></tr>
<tr><td>3
～
7</td><td colspan="2">主な疾患</td><td colspan="2">1. 器質性精神病
2. 精神活性物質による精神および行動の異常
3. てんかん
4. 統合失調症
5. 躁鬱病
6. 神経症・心因反応
7. 人格障害
8. 精神発達遅滞</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="2">主な治療</td><td colspan="2">1. 身体療法
2. 精神療法
3. 薬物療法
4. リハビリテーション療法</td></tr>
<tr><td>教科書

参考書</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　第 6 版（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　第 6 版（医学書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	微生物学	1(15)	1年	前期
担当教員	福島　博	実務経験	専門学校にて教授経験あり。	

授業形態	講義
目的	微生物は患者を理解する上で基礎的知識となり、感染の予防及び援助を行う際の基盤となる。 特に看護技術における感染症の予防は微生物の知識が基盤となり、原理に基づいた看護へと関連していくのに必要である。 微生物の特徴と主体に及ぼす影響を学び、その対応について理解する。
目標	看護に必要な微生物の基礎知識を学ぶ。

授業内容	回	項目	内容
	1	微生物学の基礎	1. 微生物と微生物学 2. 細菌の性質
	2	微生物学の基礎	3. 真菌の性質 4. 原虫の性質 5. ウイルスの性質
	3・4	感染とその防御	6. 感染と感染症 7. 感染源・感染経路からみる感染症 8. 感染症の予防 9. 感染症の検査と診断 10. 感染症の現状と対策
	5・6	主な病原微生物 細菌学各論	1. 病原細菌と細菌感染症 1. グラム陽性球菌 2. グラム陰性球菌 3. グラム陰性桿菌　好気性菌 通性菌 カンピロバクター 4. グラム陽性桿菌 5. 好酸菌、放線菌 6. 嫌気性菌 7. スピロヘータ 8. マイコプラズマ 9. リケッチア目 10. クラミジア目
	7・8	真菌学 原虫学	1. 病原真菌と真菌感染症 2. 病原原虫と原虫感染症
		ウイルス学各論	1. 主なウイルスとウイルス感染症 ＤＮＡウイルス ＲＮＡウイルス

教科書 参考書	系統看護学講座　基礎分野　微生物学　第14版（医学書院）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>専門基礎
分野</td><td colspan="2">薬理学</td><td>1(30)</td><td>1 年</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">小林 裕太</td><td>実務経験</td><td colspan="2">大学にて、教授経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">臨床薬理学では、医薬品の種類や剤形、薬物の作用機序や薬物の体内動態など人体への影響を理解し、正しい取り扱いや管理についての基礎的知識を身につける。さらに、主要な疾患とその治療薬について看護の視点から理解する。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">1.薬物の作用機構について説明できる。
2.薬物の体内動態について説明できる。
3.薬物による有害作用、薬物管理、新薬開発について説明できる。
4.主な医薬品の種類、その作用と副作用について説明できる。</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="5">
<table>
<tr><td>回</td><td>項目</td><td>内容</td></tr>
<tr><td colspan="3">総論では薬物一般に共通する知識の学習を目的とし、4 講以降では各疾患における主要な治療薬について学びます。</td></tr>
<tr><td>1</td><td>総論 1</td><td>薬物治療と看護（薬理学の概念、薬理作用の機序、与薬経路）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>総論 2</td><td>体内での薬物動態（薬物体内動態、薬効に影響を与える要因）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>総論 3</td><td>薬の有害作用、薬品管理、新薬開発</td></tr>
<tr><td>4</td><td>抗感染症薬</td><td>抗菌薬の作用機序と主な薬剤</td></tr>
<tr><td>5</td><td>抗感染症薬 2　抗腫瘍薬</td><td>特殊な感染症の治療薬、抗腫瘍薬</td></tr>
<tr><td>6</td><td>免疫関連治療薬、
抗アレルギー、抗炎症薬</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>末梢神経作用薬 1</td><td>自律神経作用薬概論、交感神経作用薬</td></tr>
<tr><td>8</td><td>末梢神経作用薬 2</td><td>副交感神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬</td></tr>
<tr><td>9</td><td>中枢神経作用薬 1</td><td>全身麻酔薬、催眠薬と抗不安薬</td></tr>
<tr><td>10</td><td>中枢神経作用薬 2</td><td>向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬</td></tr>
<tr><td>11</td><td>心臓・血管系作用薬 1</td><td>高血圧治療薬、狭心症治療薬、うっ血性心不全治療薬</td></tr>
<tr><td>12</td><td>心臓・血管系作用薬 2</td><td>抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液作用薬、循環器系救急蘇生薬</td></tr>
<tr><td>13</td><td>呼吸器系、消化器系作用薬</td><td>喘息治療薬・鎮咳薬、消化器系治療薬</td></tr>
<tr><td>14</td><td>生殖器・泌尿器系治療薬、
物質代謝に作用する薬物</td><td>生殖器系作用薬、泌尿器系作用薬、ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン欠乏症とその治療</td></tr>
<tr><td>15</td><td>皮膚科・眼科用薬、漢方薬、
消毒薬、輸液</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">講義資料を用いて講義をします。講義の理解度を知るため、毎回小テストを行います。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="5">系統看護学講座　基礎分野　薬理学　第 15 版（医学書院）
毎回講義資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td colspan="5">「今日の治療薬 2023 年版:解説と便覧」　南江堂</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="5">試験、平常点(授業への参加態度、小テスト等)を総合的に評価する
＜自己学習に関する指針＞　各疾患とその薬物治療を理解するためには、解剖学や生理学など基礎医学の知識が必要であり、基礎医学の関連事項を理解しておくこと。次回講義の初めに振り返り小テストをするので、毎回きちんと復習しておくこと。
＜その他の通知事項＞　質問は授業中でも、終了後でも応じる。それ以降は kobayashiyuta@hotmail.com にメールされたい。</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門基礎分野	総合医療論	2（30）	1年	前期
担当教員	澤田　勝寛　松浦　昌代 田中　雄二	実務経験	医師として病院にて実務経験あり。 看護師として病院勤務経験あり	
授業形態	講義			
目的	医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱えているかを理解し、深く考える。			
目標	人間の健康を守る営みがどのように変遷してきたか、人々の健康観及び家族の役割と職業として専門分化した職種の役割や協働を通し、医療の動向と医療看護提供システムについて学ぶ。患者からみた「医」の「論理」と「倫理」「管理」について考える。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1	医療コミュニケーションの原点にさかのぼる	1.援助と共感 2.専門職としての医師と看護師 3.援助される者と援助する者 4.病める者への援助	田中
2～3	医療と看護の原点	1.命について考える　2.健康のとらえ方 3.病の体験　4.癒しの行為と癒しの知	
4	医療の歩みと医療観の変遷	1.現代医療の起源　2.医療観の移りかわり 3.チーム医療とマネジメント	
5～7	私たちの生活と医療	1.もしも私たちが病気やけがをしたら 2.私たちの生活と保健・福祉行政 3.疾病の一次予防と健康増進 4.少子高齢化社会と地域包括ケア 5.ノーマライゼーションとインクルージョン 6.心の健康と精神医療	
8・9	技術社会の高度化と健康・生命をめぐる新たな課題	1.先端医療の成果 2.産業社会の発展と人間関係の健康	澤田
10	成熟する社会と人々の意識改革	1.医療不信から「賢い」患者へ 2.インフォームドコンセントと医療情報の開示 3.医療安全と医療事故	
11・12	医療を見つめなおす新しい視点	「医」の「論理」と「倫理」「管理」 ・受診行動、医療と倫理、臨床疫学、医療の管理と評価	
13	健康概念の質的変化と保健・　医療の新しい潮流	1.新時代の保健医療とその担い手 2.日本型プライマリーケア 3.心の通った医療 4.これからの先端医療 5.情報化社会と医療 6.保健・医療の国際化	
14・15	看護職に期待されるもの	医師の立場から、看護職の立場から、学生の立場から	松浦

教科書 参考書	系統看護学講座　別巻　総合医療論　第4版（医学書院）
評価方法	筆記試験にて評価を行う。

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	看護学概論	2(45)	1年	前期
担当教員	石倉　清乃　増原　清子 木村　与志子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職としての基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。			
目標	「看護とは何か」を考えるために、看護の主要概念を中心に学び、看護の位置づけと役割の重要性について理解する。 看護独自の機能と役割が理解できる。また、看護と社会的背景の関連を理解し、これらの看護を考える。 看護の理念を通して看護の本質を学び、自己の看護観を発展させる。 看護倫理の基礎的知識を学び、倫理的葛藤場面における判断能力を養う。			

授業内容

回	項目	内容	担当
1 ～ 4	看護の概念	1.看護を考える 2.看護の主要概念とは ・人間　・健康　・環境　・看護	石倉
5 ～ 7	看護とは	1.看護の本質 2.看護の役割と機能 3.看護の継続性と連携 4.看護論 ①フローレンス・ナイチンゲール　環境論 ②ヴァージニア・ヘンダーソン　ニード論 ③ドロセア・E・オレム　セルフケア理論 ④ゴードン・M　11の機能的健康パターン ⑤パトリシアベナー　看護のスキル獲得を5段階に分類	増原
8 ～ 11	看護の対象の理解	1.人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味 2.生涯発達し続ける存在としての人間理解 3.人間の「暮らし」の理解	石倉
12 ～ 16	看護の提供者	1.職業としての看護 2.看護職の資格、養成制度、就業状況 3.看護職者の継続教育とキャリ開発 4 看護職養成制度の課題	
17 ・ 18	看護における倫理	1.現代社会と倫理 2.倫理の歴史的経緯と看護倫理 3.看護実践における倫理問題への取り組み	増原
19 ～ 21	看護の提供のしくみ	1.サービスとしての看護 2.看護サービスの提供の場 3.看護をめぐる制度と政策 4.看護サービスの管理 5.医療安全と医療の質保証	
22 ～ 23	広がる看護の活動領域	1.国際化と看護 2.災害時における看護	木村与

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　看護学概論　第17版（医学書院） 看護の基本となるもの　再新装版　湯槇ます（日本看護協会出版会） 新版　看護職の基本的責務　2024年版　日本看護協会監修（日本看護協会出版会） 看護覚え書 第8版（現代社）
評価方法	筆記試験　レポート　グループワーク発表（資料内容・発表内容）

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	基礎看護技術論Ⅰ-1 (基本技術)	1(30)	1年	前期
担当教員	木原公恵　増原清子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。			
目標	対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を学び、高い臨床能力を養う。			

授業内容	回	項目	内容	担当
	1	看護技術論	1.看護技術論とは 2.看護実践の場とは	木原
	2	観察	1.観察の意義、内容、方法	
	3 ～ 5	コミュニケーションの基礎	1.コミュニケーションとは 2.コミュニケーションの手段 3.良いコミュニケーションを持つために 4.コミュニケーションの実際	
	6 ～ 15	感染防止の技術 安全確保の技術 基本的活動の援助	1. 感染防止の技術 A. 感染予防の基礎知識 ・標準予防策　・滅菌と消毒 ・感染経路別予防策 B. 安全確保の基礎技術 2.安楽を守る技術 ・ボディメカニクス ・体位変換	増原

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　第19版（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　第3版(医学書院)
評価方法	筆記試験　授業課題（提出物）　出席状況　態度

<table>
<tr><td>分野</td><td colspan="2">科目名</td><td>単位(時間)</td><td>対象学年</td><td>時期</td></tr>
<tr><td>専門分野</td><td colspan="2">基礎看護技術論Ⅰ-2
(基本技術)</td><td>1 (30)</td><td>1 年</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="2">狩野　賢二　石倉　清乃</td><td>実務経験</td><td colspan="2">大学で教授経験あり
看護師として病院勤務経験あり。</td></tr>
<tr><td>授業形態</td><td colspan="5">講義</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。
看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。
看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">対象の理解と看護実践の基礎となる基本技術を学び、高い臨床能力を養う。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">授業内容</td><td>回</td><td>項目</td><td colspan="2">内容</td><td>担当</td></tr>
<tr><td>1
～
10</td><td>フィジカルアセスメント</td><td colspan="2">ケアにつなげるフィジカルアセスメント
1. 呼吸器系
2. 循環器系
3. 乳房・腋下
4. 腹部
5. 筋・骨格系
6. 神経系
7. 頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント
8. 外皮系のフィジカルアセスメント
9. フィジカルアセスメントの実際</td><td>狩野</td></tr>
<tr><td>11
～
13</td><td>学習支援</td><td colspan="2">1. 看護における学習支援
2. 健康に生きることを支える学習支援
3. 健康状態の変化に伴う学習支援
4. 学習支援の実際</td><td rowspan="2">石倉</td></tr>
<tr><td>14
・
15</td><td>記録・報告</td><td colspan="2">1. 看護記録とは
2. 記載・管理における留意点
3. 看護記録の構成
4. 報告の重要性・方法</td></tr>
<tr><td>教科書
参考書</td><td colspan="5">系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　第19版（医学書院）
根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第3版(医学書院)
日常生活行動からみるヘルスアセスメント　初版　（日本看護協会出版会）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">筆記試験　提出物　出席状況</td></tr>
</table>

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	基礎看護技術論Ⅱ (生活援助技術)	2(60)	1年	前期
担当教員	石倉　清乃　福井　孝子 近藤　直美　木村与志子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			

目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。
目標	科学的根拠に基づいて、日常生活援助ができる基礎的看護技術を習得する。

	回	項目	内容	担当
授業内容	1 ～ 4	環境を整える	1. 環境とは 2. 病室の環境のアセスメント 3. 環境整備・ベッドメーキング（技術試験）	近藤
	5 ・ 6	移動する	1. 移動・移送の援助 2. よい姿勢とボディメカニクス 3. 車いす・ストレッチャーへの移動・移送（演習）	
	7 ～ 11	バイタルサイン測定	1. 呼吸・循環とは 2. 体温とは 3. 意識とは 4. 呼吸・脈拍・血圧・体温の測定（技術試験）	石倉
	12 ～ 14	適切に飲食する	1. 栄養・食事を整える援助 2. 食事介助（演習） 3. 経鼻栄養チューブの挿入・管理、流動食の注入（演習）	福井
	15 ～ 20	排泄する	1. 排泄とは 2. 安楽な排泄の援助 3. 便器・尿器の挿入（演習）	木村与
	21 ～ 28	清潔を保つ	1. 清潔とは 2. 清潔の援助 3. 口腔ケア・洗髪・足浴・手浴・陰部洗浄 寝衣交換(演習)　全身清拭（技術試験）	福井
	29 ・ 30	活動・休息を保つ	1. 睡眠・休息の意義と生理的メカニズム 2. 睡眠と休息のアセスメントと援助	近藤

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　第18版（医学書院） 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第3版(医学書院) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント　初版　（日本看護協会出版会）
評価 方法	筆記試験 技術試験：ベッドメイキング、バイタルサイン測定、臥床患者の清拭

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	基礎看護技術論Ⅲ (診療処置別看護技術)	1（30）	1年	後期
担当教員	福井 孝子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義　演習
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護活動を円滑に行うための管理について理解することができる。
目標	診療・治療に伴う看護技術を学ぶ。

授業内容

回	項目	内容
1 ～ 4	診療時の援助 検査に伴う看護技術 処置に対する技術	1. 診断治療過程の理解 2. 診察場面における看護の役割 3. 検査の目的と看護の役割 4. 検査介助のポイント 5. 検体検査 ・穿刺　・分泌物（喀痰） ・尿　・血液 6. 生体検査、生体機能管理技術 7. 身体計測（演習） 8. 包帯法 ・包帯の目的 ・実践（演習） 9. 創傷管理技術、褥瘡予防 10. 体温調節の技術（罨法）
5 ・ 6	呼吸管理に必要な技術	1. 吸引（演習） 2. 酸素吸入（演習） 3. 体位ドレナージ・気管内加湿
7 ～ 15	与薬時の技術	1. 与薬の目的と看護の役割 2. 経口的与薬 3. 直腸内座薬（演習） 4. 塗布・塗擦法 5. 注射適用の援助（演習） ・皮下注射 ・筋肉注射 ・皮内注射 ・静脈（内）注射、点滴静脈（内）注射 6，中心静脈カテーテル留置 7，輸血管理

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　第18版（医学書院） 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第3版(医学書院) 日常生活行動からみるヘルスアセスメント　初版　（日本看護協会出版会）
評価方法	筆記試験　提出物　技術演習

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
基礎分野	基礎看護学実習Ⅰ	1(45)	1年	後期
担当教員	石倉　清乃	実務経験	総合病院での実務経験あり。	
授業形態	臨地実習			
目的	看護の対象の療養環境と看護活動の場を見学・体験することにより、対象を理解し、対象をとりまく環境について学び、健康に障害をもった対象に必要な環境調整の意義と日常生活援助の必要性を理解し、その実際について学ぶ。			
目標	1.対象の療養生活の場としての生活環境を理解する。 2.対象に関心をよせて接し、人間としての対象をありのままにとらえる。 3.健康に障害をもったことによって生じた対象の生活行動の変化について、情報収集ができる。 4.対象に実施される日常生活援助の必要性を理解できる。 5.対象の安全・安楽・自立を考えた日常生活援助が実施、ふりかえることができる。 6.看護実践が看護倫理に基づいた行為であることを理解する。			
内容	1. 1) 病院の設備、部署を知る。 (1) 見学を通して、病院にはどのような設備や部署があるのか、どんな役割や仕事をしているのか、どんな職種の人が働いているのかを知る。 2) 病棟の構造、設備を知る。 (1) ナースステーション、処置室、リネン室、倉庫、物品庫、洗濯室、トイレ、洗面所、浴室、面談室などの位置関係やその利用について考える。 3) 病棟のなかでの病室の位置関係を知る。 (1) 病棟の機能性や対象の状態による病室の位置について考える。 4) 対象および医療従事者に対する安全への配慮を知る。 (1) 事故防止対策、院内感染防止対策、災害対策、ゴミ処理について知る。 5) 病棟や病室の環境が、対象の日常生活とどのような関わりを持っているかを一人の対象を通して考察する。 〈観察の観点〉 採光、色彩、音、室温、湿度、臭い、ベッドの位置およびその機能 病棟での病室の位置関係、 ベッドの間隔、カーテン、病室の広さ、床頭台の位置、入口や窓の位置、ナースコールの位置 6)対象の生活空間としての病室を観察する。 (1) 床頭台の上の物品の配置やその内容を考察する。(2) ベッド上およびベッド周りの物品とその配置を考察する。 2. 1) 対象に関心を寄せて接することができる。 2)コミュニケーションの技法を活用し、対象とのコミュニケーションをとる。 3)対象を疾患名にとらわれず人間としてありのままとらえる。 (1)バイタルサインの測定の時 (2)日常生活援助の時 (3)対象と看護者の関わりから (4)対象の反応 3. 1) 対象と関わりをもつ中で情報を収集する。 (1)環境整備などの実施をとおして (2)バイタルサイン測定の実施をとおして(3)日常生活援助の見学や実施をとおして 2) 上記で得た情報を指導者に報告する。 3) 実際に対象と接することが情報収集になることを理解する。 4) 情報収集の内容が看護実践につながることを理解する。 4. 1) 対象にどのような日常生活援助が実施されているか理解する。 2) どのような方法で実施されているか理解する。 5. 1) 日常生活援助の実施を実習指導者又は看護教員の指導のもとに行う。 2) 日常生活援助を実施する時は必ず対象の反応などから情報収集する。 3) 実施した日常生活援助について安全・安楽・自立の視点で振り返る。 6. 1) 看護実践は全て倫理に基づいて行われることを対象との関わりや援助を通して理解する。 (看護師や医療職者の患者に対するあいさつ・言葉がけや行動から相手を思いやり尊重する態度を学ぶ)			
評価方法	学習状況、実習目標達成度、出席状況、実習態度等による総合評価 (評価表あり)			

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	基礎看護技術論Ⅳ (看護過程)	2(45)	1年	後期
担当教員	石倉　清乃	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義　演習		
目的	看護学全体の主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学ぶ。 看護専門職として基礎的能力を養い、看護実践の基本を習得することができる。 看護を展開するための思考過程を学び、全領域へと発展できる。		
目標	基礎看護技術を統合して行う援助技術について学び、展開できる。		
授業内容	回	項目	内容
	1 ～ 5	看護過程の概念	1. 看護過程の意義 2. 看護過程 ①情報収集とアセスメント ②看護診断 ③計画立案 ④実施 ⑤評価
	6 ～ 23	看護過程の展開	1. 事例展開 ①情報収集とアセスメントの実際 ②看護問題の明確化(看護診断)の実際 ③計画立案の実際 ④実施の実際 ⑤評価の実際
教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　第18版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　第18版（医学書院） 患者さんの情報収集ガイドブック 第2版　古橋洋子（メヂカルフレンド社） 日常生活から行動からみるヘルスアセスメント　初版　（日本看護協会出版会）		
評価方法	筆記試験事・例展開レポートにて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	地域・暮らしの理解Ⅰ	1(30)	1年	前期
担当教員	木原公恵	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	
授業形態	講義　演習			
目的	地域包括ケアシステム等を促進するために、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。			
目標	地域に暮らす自分　及び　家族を理解する。 日々暮らしを営んでいる生活者を理解し、その暮らしと健康との関係について考えることができる。 地域・在宅看護の対象者の各ライフステージの特徴と、その多様性を理解するとともに、対象者は様々な健康レベルにあることを理解する。			

授業内容	回	項目	内容
	1 ～ 3	地域・在宅看護の対象である自分と家族	地域に生活する「自分」の理解 「家族」の理解 自分を理解する（演習） 家族を理解する（演習）
	4 ～ 7	地域の中での暮らしと健康・看護	働くこと・学ぶことと暮らし 高齢者のいる暮らし 出産・育児と暮らし
	8 ～ 11	人々の暮らしと地域・在宅看護	人々の暮らしの理解 地域・在宅の役割 暮らしを理解する
	12 ～ 15	地域・在宅看護の対象	地域・在宅看護の対象者 地域に暮らす対象者の理解と看護 看護におけるライフステージに応じた看護

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　第6版（医学書院）
評価方法	出席状況、提出物、レポート内容、学科試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	地域・暮らしの理解Ⅱ	1（30）	1年	前期
担当教員	勝部　美保子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義　演習
目的	地域包括ケアシステム等を促進するために、地域に暮らす人々とのパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を養う。
目標	それぞれの地域は様々な特徴をもつことを学び、地域のとらえ方を理解する。 暮らしは地域の特性に大きな影響を受けていることを理解する。 暮らしにおける環境の重要性や意味を理解し、環境を整える地域・在宅看護の役割を学ぶ。各ライフステージにある人々の特徴を理解した上で、人々の暮らしの場を知り、影響を受けている要因を理解する。 地域・包括ケアシステムにおける在宅看護の位置づけと看護の役割を理解する。 暮らしの中にあるリスクについて学び、災害対策における地域・在宅看護の役割を理解する。

授業内容	回	項目	内容
	1 ・ 2	暮らしの基盤としての地域の理解	暮らしと地域 暮らしと地域を理解するための考え方 地域包括ケアシステムと地域共生社会 地域を理解する（演習）
	3 ～ 5	地域における暮らしを支える看護	暮らしを支える地域・在宅看護 暮らしの環境を整える看護 広がる看護の対象と提供方法 地域における家族への看護 地域におけるライフステージに応じた看護 地域での暮らしにおけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策
	6 ～ 15	暮らしと地域の関連	各ライフステージにおける人々の暮らし 暮らしの場 健康課題と予防 家族の役割 （グループワーク・フィールドワーク）

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　第6版（医学書院）
評価方法	出席状況、提出物、レポート内容、学科試験

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	成人看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	増原　清子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義　演習		
目的	成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康レベルや状況に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	成人各期の特徴を理解し、成人期における疾病の予防、健康の保持増進と健康段階に応じた看護について学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1・2	成人期にある対象とその家族の理解	1. 大人になること、働いて生活を営むこと 2. 成人の発達段階の特徴 3. 環境と生活から見た健康 4. 成人の看護アプローチの基本 5. 家族からとらえる大人
	3～5	成人を取り巻く環境と生活から見た健康	1. 成人を取り巻く環境と生活状況 2. 生活の中で健康行動を生み育む援助 3. 生活と健康を守り育むシステム 4. 生と死の動向
	6・7	成人期の健康問題の特徴	1. 生活習慣病に関連する健康問題 2. 職業に関連する健康障害 3. メンタルストレスに関する健康障害
	8～15	成人の健康レベルに応じた看護	1.　ヘルスプロモーション 2. 健康生活の急激な破綻、回復を支援する看護 3. 慢性病とともに生きる人を支える看護 4. 障害がある人の生活とリハビリテーション 5. 人生の最期のときを支える看護
教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　第15版（医学書院）		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	老年看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	矢田　リエ子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義　演習
目的	老年の特徴を理解し、老年期における疾病の予防、健康の保持増進のための援助のあり方を学ぶ。
目標	加齢に伴う身体的心理的変化について理解する。 エイジングの多様性に着眼し、個々の老年者のもつパワーを洞察する視点について理解する。 老年者を取り巻く保健医療福祉サービスの構成とその特徴に対する理解を深める。

授業内容	回	項目	内容
	1 ・ 2	老年看護の概念	1. 老年看護学の変遷と社会史 2. ライフサイクルと老年期 3. 老年期の発達課題
	3	高齢社会の統計的特徴	1. 人口学的指標からみた老年期の特徴 2. 健康指標、経済的指標からみた老年期の特徴
	4 ・ 5	加齢に伴う変化	1. 加齢に伴う身体的変化 2. 加齢に伴う心理的変化 3. 老年期の発達課題加齢に伴う社会文化的変化 4. 加齢に伴う変化と健康上の問題
	6 ～ 11	高齢者の理解	1.「老い」を生きることへの理解 2. 高齢者疑似体験
	12 ・ 13	高齢者と倫理	1. 高齢者差別 2. 高齢者虐待 3. 成年後見制度
	14	老年看護の役割・機能	1. 老年看護の独自性 2. 老年看護の目標 3. 老年看護の原則
	15	高齢社会の保健・医療・福祉	1. 老年保健・医療・福祉の動向 2. 高齢者の保健活動 3. 高齢者支援システム

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第9版（医学書院）
評価方法	筆記試験・レポートにて評価を行う。

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	老年看護学Ⅰ (生活援助技術)	1(30)	1年	後期
担当教員	矢田　リエ子	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義		
目的	老年看護援助の基本と身体的・精神的変化と生活リズムの回復に焦点をあてたアセスメントとケアの技法について学ぶ。		
目標	高齢者の生活リズムを回復するためのアセスメントの進め方を学ぶ。 高齢者の生活リズムを回復するための具体的なケアの実践方法について学ぶ。		
授業内容	回	項目	内容
	1 ～ 4	加齢によって起こってくる 生活の変化	1. ヘルスアセスメントとセルフケアの支援 バイタルサイン・一般状態 コミュニケーション 食生活（低栄養）(誤嚥) 清潔、排泄、活動と休息、睡眠、 認知機能、社会的役割、経済状態 2. 老年期に多い症状のアセスメントとセルフケ 痛み・しびれ、皮膚掻痒感、視力低下 難聴、めまい、うつ、せん妄 脱水、褥瘡、体温調節
	5 ～ 7	高齢者の日常生活援助	1. 脱水 2. 栄養管理 3. 口腔ケア 4. 失禁　（演習：おむつ交換） 5. 便秘 6. 皮膚ケア 7. 褥瘡 8. 移動困難　（演習：歩行・移動介助） 9. 不眠
	8 ～ 10	介護を必要とする 老年期にある人の看護	1. 身体可動性障害のある人の看護 （寝たきりの高齢者）
	11 ～ 15	高齢者に多い医療事故	1. 転倒・転落 2. 誤嚥
教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第9版（医学書院）		
評価方法	筆記試験にて評価を行う。		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	小児看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	木原　公恵	実務経験	病院にて実務経験あり。	

授業形態	講義(グループワーク含む)		
目的	小児の特徴を理解し、小児の健全な保育・小児期における疾病の予防・健康の保持・増進のための援助のあり方を学ぶ。		
目標	小児の特徴を知り、子どもの健康のとらえ方と看護の役割について理解する。 小児看護における成長・発達の基本的な特徴について理解する。 小児保健の動向と対策について理解する。		
授業内容	回	項目	内容
	1	小児看護とは	小児看護の対象
	2 ～ 5	小児看護の特徴と理念	小児看護のめざすところ、小児と家族の諸統計、小児看護の変遷、小児看護における倫理
	6	子どもの成長・発達	成長・発達とは，影響因子、成長・発達の評価
	7	新生児・乳児の成長・発達	新生児・乳児期の栄養成長、発達。養育および看護
	8	幼児の成長・発達	幼児期の栄養、成長、発達。養育および看護
	9	学童期の成長・発達	学童期の栄養、成長、発達。諸環境。養育および看護
	10	思春期・青年期の成長・発達	思春期の栄養、成長、発達。諸環境。養育および看護
	11	家族の特徴とアセスメント	子どもにとっての家族とは、家族アセスメント
	12 ～ 14	子どもと家族を取り巻く社会	児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種、学校保健、特別支援教育、臓器移植
	15	小児看護の特徴と理念	小児看護の課題
教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　第14版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　第14版（医学書院）		
評価方法	筆記試験、出席状況、提出物、 レポート内容		

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	母性看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	近藤　直美	実務経験	助産師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義
目的	母性の概念と人の種族保存の意義を理解し、母性看護の意義と役割を学ぶ。 女性の各ライフステージの特徴と対象の健康の維持・強化についての看護を理解する。 生命と倫理について考え、生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。
目標	人間の性と生殖の意義と必要性を理解できる。 母性看護の意義と役割が理解でき、生命倫理について考えることができる。 母性各期の特徴、および各期の健康と看護が理解できる。

授業内容	回	項目	内容
	1	母性看護の概念	1.母性の概念と母性看護の意義と役割 2.親になること 3.身体的、心理的、社会的特性 4.母性意識の発達と影響因子
	2・3	母性看護の現状と動向、母子保健に関する法規と施策	1.母性看護の変遷 2.母子保健統計からみた動向 3.母性看護に関する組織と法律
	4・5	リプロダクティブヘルス・ライツ、ウィメンズヘルス	1.リプロダクティブヘルス／ライツとは 2.セクシュアリティと LGBTQ 3.リプロダクティブヘルス／ライツと女性の健康
	6	女性のライフサイクルと健康問題　(思春期)	1.女性のライフサイクルと性周期 2.第二次性徴、思春期の女性の特徴 3.思春期の健康問題-月経異常
	7～11	女性のライフサイクルと健康問題（性成熟期）	1.性成熟期女性の特徴 2.性成熟期女性の健康問題-月経異常　子宮筋腫 3.性成熟期女性の健康問題-子宮内膜症 4.性成熟期女性の健康問題-乳がん　卵巣がん 5.性成熟期女性の健康問題-子宮がん 6.性成熟期女性の健康問題-不妊症
	12	女性のライフサイクルと健康問題（更年期・老年期）	1.更年期と更年期女性の特徴 2.更年期障害 3.老年期女性の健康問題-骨盤内臓器脱
	13～15	母子保健をめぐる問題	1.DV、虐待 2.母性看護と倫理

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論　第14版　(医学書院)
評価方法	筆記試験・レポートにて評価を行う。

分野	科目名	単位(時間)	対象学年	時期
専門分野	精神看護学概論	1(30)	1年	後期
担当教員	石倉　清乃	実務経験	看護師として病院勤務経験あり。	

授業形態	講義
目的	精神看護の対象と目的・機能、精神の健康と正常と異常の概念、心の構造と機能について理解する。精神保健・医療・看護の歴史的返還を理解し、さらに精神保健福祉法など関連法規から精神障害者の人権擁護と倫理について学ぶ。ライフサイクルからみた各々発達課題の特徴や心の健康と防衛機制、精神看護学の理論的枠組みを基に精神看護の特性と役割を理解し心の健康の保持・回復のための基礎的能力を養う。
目標	心の健康を維持するための援助及び精神障害をもつ人々に応じた援助をおこなうために、ライフサイクルや生活の場を理解する。特に精神看護概論では、心の構造と機能、精神医療の歴史について学び、精神保健活動における看護師の果たす役割と機能について考えを深めることができる。

授業内容	回	項目	内容
	1〜4	精神看護とは	1. 精神看護とは何か 2. 精神障害を持つ人の病の体験と精神看護 3.「心のケア」と日本社会 4. 精神看護の課題
	5・6	精神保健の考え方	1. 精神の健康とは 2. 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3. 心的外傷と回復 4. 精神障害というとらえ方
	7・8	心のはたらきと人格形成	1. 心のはたらき 2. 心のしくみと人格の発達 ライフサイクルとアイデンティティ
	9〜13	社会の中の精神障害	1. 精神障害と治療の歴史 2. 日本における精神医学・医療の流れ 3. 精神障害と文化 4. 精神障害と社会 5. 精神障害と法制度 6. 主な精神医療福祉対策とその動向
	14・15	精神科看護における看護師の役割	1. 入院・治療に伴う患者の心の理解と看護 2. リエゾン精神看護

教科書 参考書	系統看護学講座　専門分野　精神看護の基礎　第6版（医学書院） 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　第6版（医学書院） 系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　第4版（医学書院）
評価方法	グループワーク、発表、提出物、筆記試験